

# 期首商品棚卸高の仕訳 ハンドブック



※当資料に従うことで、法令違反がないことを保証する資料ではありません。  
※あくまで参考としてご活用いただくことを想定している資料です。実際の制度内容は国の資料等をご確認ください。  
※当資料は、2026年1月時点の内容となっております。最新の情報は国の資料等をご確認ください。

# 期首商品棚卸高の仕訳ハンドブック

## 期首商品棚卸高の決算整理仕訳

### 仕訳の目的と役割

前期から繰り越された「資産（繰越商品）」を、当期の「費用（仕入＝売上原価）」に計上し直すために行います。

- ・実施時期：年1回の「決算整理」にて実施
- ・役割：前期の在庫分を当期の売上原価の構成要素に含める

### 基本の仕訳パターン

（借方）に費用を、（貸方）に資産を立てて振り替えます。

借方勘定（費用の発生）	貸方勘定（資産の減少）
仕入	繰越商品

### 仕訳の構造

- ・仕入（借方）：前期在庫分を「当期の費用」として計上
- ・繰越商品（貸方）：資産として計上されていた「前期末の残高」を相殺

# 期首商品棚卸高の仕訳ハンドブック

## 業種別の期首商品棚卸高と管理範囲

### 業種・品目による勘定科目の選択

「期首商品棚卸高」として扱うべき棚卸資産の種類は、業種によって異なります。自社の形態に合わせ、以下の科目を確認して振替仕訳を行います。

業種	期首商品棚卸高に該当する科目	内容
小売・卸売業	商品	販売目的で仕入れた物品
製造業	製品・半製品	完成品および一定の状態まで完成したもの
製造業	仕掛品	現在製造工程にある未完成のもの
製造業	原材料・貯蔵品	加工前の素材や未使用の消耗品など

### 製造業における管理範囲

製造業の場合、期首商品棚卸高は「商品」ひとつだけではありません。製造プロセスの各段階にある資産すべてが対象となります。

- ・製品・半製品から原材料・貯蔵品にいたるまで、期首時点の評価額を漏れなく確認し、適切に費用の勘定へ振り替えます。

# 期首商品棚卸高の仕訳ハンドブック

## 期首商品棚卸高の消費税と整合性

### 消費税の取り扱い

決算整理における振替仕訳は、消費税の計算には影響させません。

- ・**設定すべき税区分：対象外（または不課税）**
- ・**理由：**消費税の控除は「仕入れた時点」で既に行われているためです。決算時の内部振替で二重に消費税を計上しないよう設定に注意します。

### 金額確定のチェックポイント

仕訳時に入力する「期首商品棚卸高」の金額は、以下の数値と完全に一致している必要があります。

- ・前期の貸借対照表（B/S）の「棚卸資産（繰越商品など）」の期末残高
- ・当期期首時点の「繰越商品」勘定の開始残高

# 期首商品棚卸高の仕訳ハンドブック

## 期首商品棚卸高から導く売上原価

### 仕訳が損益計算書に反映される仕組み

計上した仕訳は、損益計算書（P/L）の「売上原価」の項目に以下のフローで反映されます。

#### 売上原価の計算構造

1. (+) 期首商品棚卸高（本資料の仕訳で算入）
2. (+) 当期商品仕入高（期中の純仕入高）
3. (-) 期末商品棚卸高（期末の実地棚卸で確定した在庫額）

#### 運用のサイクル

売上原価を正確に算出するためには、期末の実地棚卸が不可欠です。今期の「期末商品棚卸高」として算出し資産計上した額が、翌期の「期首商品棚卸高」として次回の仕訳の起点となります。